参考資料3

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2021年度

# 生物多様性とSDGsユース会議・多世代フォーラム

Youth Conference & Multi Stakeholder Forum on Biodiversity and SDGs in Aichi

## 開催報告書

愛知県

## はじめに Introduction

愛知県知事
**大村 秀章**

「生物多様性とSDGs 多世代フォーラム・ユース会議」は、多様な主体・世代の連携及びパートナーシップにより、経済・社会を支える基盤である生物多様性の保全を進め、持続可能な社会の構築につなげることを目的に、本県が開催したものです。

本県では2005年、「自然の叡智」をテーマに開催された愛知万博をきっかけに、自然環境に対する県民意識が高まり、様々な環境活動が活発になりました。

さらに2010年、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が本県で開催されたことを契機に、本県は県内9地域で企業やNPO、大学、行政等、地域の多様な主体とともに生態系ネットワーク協議会を設立し、連携・協働による生物多様性保全活動の推進に努めてまいりました。

また2019年には、本県は内閣府よりSDGs未来都市に選定され、SDGsの普及・浸透を図るため、様々な施策を実施しています。

こうした経緯を踏まえ、2030年、そして2050年に向け、生物多様性を守り、持続可能な社会を実現していくには、社会を構成する多様な主体がSDGsの視点を持ち、連携を広げるとともに、様々な世代の経験を、次代を担うユース世代の学びや成長につなげ、持続可能な社会づくりへの新たなチャレンジを生み出していくことが不可欠です。

今回のユース会議・多世代フォーラムをきっかけに、SDGsを切り口として、多様な主体・世代の協働による生物多様性保全、持続可能な社会づくり・人づくりに向けた取組が拡がっていくことを期待しています。

生態系ネットワーク協議会

国際自然保護連合日本委員会 副会長兼事務局長
日本自然保護協会 広報会員連携部長
**道家 哲平 氏**

フォーラムでは、コロナ禍にありながら県内や世界のユースと交流し、未来へのアイディア、現場を変える取り組みに邁進するユースと、ユースと交流しながら、湿地や企業緑地の保全再生を進めるNGOや企業との交流が生み出す可能性が強調され、SDGs達成には、人材育成と世代交流が鍵となることが明らかとなりました。

企画運営に関わった全ての人に敬意を表し、あわせて、成果を県内に留めず、日本や世界に発信し、愛知目標2.0と呼べる次期生物多様性世界目標の策定と実施に、さらなるリーダーシップを発揮することを期待します。

大同大学情報学部総合情報学科 教授
知多半島生態系ネットワーク協議会 会長
**大東 憲二 氏**

生物多様性はSDGsの達成に不可欠です。生物多様性を支える環境保全団体の多くは、構成員の高齢化により、将来の活動継続に不安を感じています。また、他地域の活動団体との連携も十分とは言えません。このような問題を解決するために、若者が重要な役割を果たします。生物多様性とSDGs多世代フォーラム・ユース会議では、生物多様性が当たり前の社会を作るためのアイディアや、子供に生物多様性の大切さを教える若者ならではのアイディアの提示がありました。SDGs達成のために、これらのアイディアを実現させましょう。

人間環境大学 人間環境学部 環境科学科 准教授
西三河南部生態系ネットワーク協議会 会長
**谷地 俊二 氏**

「SDGsの達成」と「生物多様性の保全」は、それぞれを独立して実行しようとすると、意外と何をするのか悩みます。組み合わせることで、行動を具体化できます。今回、さまざまな分野を学ぶユースが集まり、知識やアイディアを組み合わせて7つの提案がなされました。

このような「みんなで考え、アイディアを組み合わせて、形にする」ことが、誰一人取り残さない持続可能な社会づくりに必要と思います。ユースの皆さんにはこれからも積極的に多くの人と関わり、皆が幸せになれる社会を創造してくれることを期待しております。

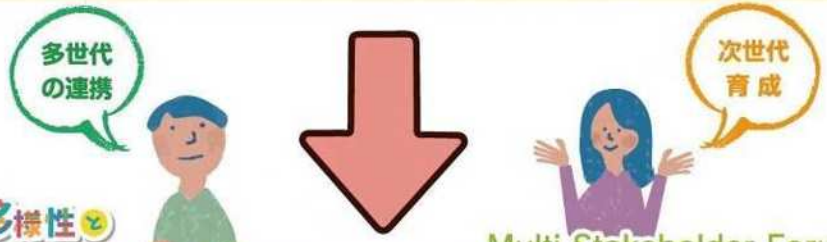


## 概要

SDGsを切り口として生物多様性保全の推進について取組を共有し、持続可能な社会につなげるため、次代を担うユース世代を対象とした「生物多様性とSDGsユース会議」と、多様な世代・主体を対象とした「生物多様性とSDGs多世代フォーラム」を開催しました。

### 生物多様性とSDGsユース会議 Youth Conference

次代を担うユース世代の皆さんが、2050年の自然共生社会の実現に向けた取組アイディアについて、SDGsの考え方も踏まえ、若者目線で話し合いました。事前に実行委員会ユースが考えた「教育」、「暮らし」、「ビジネス」の3つのテーマを切り口に、ユース世代ができること、大人へ提案したいこと、さらに若い世代に受け継いでいきたいこと等、未来に向けたアイデアを検討しました。




### 生物多様性とSDGs多世代フォーラム Multi Stakeholder Forum

幅広いパートナーシップにより生物多様性の保全を進め、持続可能な社会を目指すため、多様な主体・世代の参加者が取組を共有し、今後の方向性について考えました。県内の企業、市民団体、学生団体からの取組発表に加え、ポスター展示により様々な団体の取組を共有しながら、COP10以降の国際潮流も踏まえ、意見交換を行いました。ユース会議や、ブラジル・サンパウロ州のユースとの友好交流に関する成果等、次代を担うユース世代からの報告もあり、「多様な主体」に加え、「多世代」での連携促進を図りました。

# 生物多様性とSDGsユース会議

Youth Conference on Biodiversity and SDGs

**2022年**
**2月26日(土)**
**13:00~17:00**

会場 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

多様な学校・専門のユース35名が集まり、取組発表やディスカッションを行いました。ディスカッションでは、7グループに分かれ、人間環境大学 谷地俊二 准教授によるファシリテーションのもと、実行委員会ユースが事前に決定した3つのテーマ(教育・暮らし・ビジネス)に沿って取組アイディア検討・成果発表を行いました。

【ファシリテーター】
人間環境大学 准教授　西三河南部生態系ネットワーク協議会会長　谷地俊二氏

**取組発表団体**

- 人間環境大学 環境クラブ（参画と資格＆水と緑）
- 名古屋大学環境サークル Song of Earth
- 命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会
- 愛知県ーブラジル・サンパウロ州ユース間交流チーム
- GAIA
- 名城大学古着回収チーム
- 愛知教育大学学生団体 SAGA

## Group B

教育

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"ひと"

～理想の未来をつくるための、教育・啓発の取組アイディアを考える～

自然テーマパークをつくってみんなが"楽しく"学べるようにしよう！

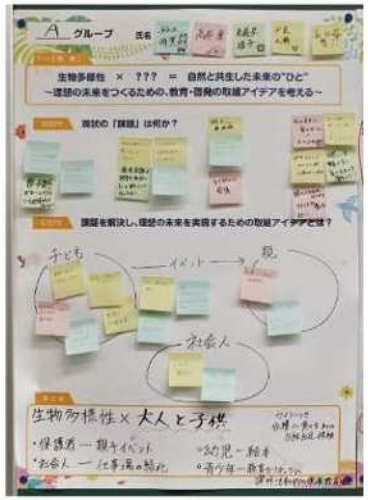
## Group A

教育

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"ひと"

～理想の未来をつくるための、教育・啓発の取組アイディアを考える～

子どもたちだけじゃなくて大人も学べるのが大事だよね







## Group C

暮らし

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"暮らし"

～自然と共生する未来に向けて、今からトライできる日常の生物多様性アクションとは～

物質の消費量が数値化されて見える化できるのってよくない？

## Group D

暮らし

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"暮らし"

～自然と共生する未来に向けて、今からトライできる日常の生物多様性アクションとは～

## Group F

ビジネス

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"ビジネス"

～生物多様性を守る・広めるビジネスプランを考える～

## Group E

暮らし

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"暮らし"

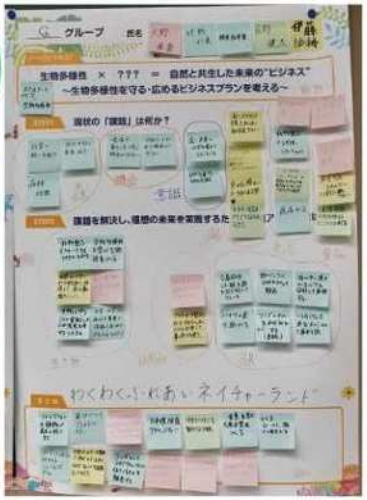
～自然と共生する未来に向けて、今からトライできる日常の生物多様性アクションとは～

## Group G

ビジネス

### 生物多様性 × ？？？＝自然と共生した未来の"ビジネス"

～生物多様性を守る・広めるビジネスプランを考える～



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

# 生物多様性とSDGs ユース会議の成果について

| テーマ | グループ | 議論の成果 |
|---|---|---|
| 教育 | A | 生物多様性×大人と子供<br>・保護者ー親子イベント・社会人ー仕事場の緑化<br>・幼児ー絵本 ・青少年ー(教育カリキュラム、課外活動内の環境教育強化) |
| | B | 子どもとともにつくる自然テーマパーク(ユースの私達が中心となって！)～生きものが苦手な子も楽しく～<br>①VRで動物体験 ②映えスポットと特典 ③産地の見える化 ④子どもとともにビオトープ |
| 暮らし | C | ・自然と共生するために、人々の意識を変えることが必要⇒生活に関わるゴミ、エネルギーに注目<br>(例)アプリで自分の物資の消費量を可視化→１年ごとに行う。(集計単位は1ヶ月)<br>・エネルギー消費の基準を設定⇒各家庭ごと、自分の家庭がそれを上回るか、下回るか確認<br>・夏祭りなど既存のイベントで生物多様性について学べるブースの設置 |
| | D | ・ゴミを出さないようにするための工夫(例：マイボトル、使えるものを使う、竹細工の普及、など)<br>・ゴミ問題の発信、普及(例：目に見えるところに絶滅危惧種をモチーフにしたデザイン、SNS、イベント等) |
| | E | ・生物多様性×シニア⇒公民館でユースとシニアの交流(生きものや生物多様性について)<br>・生物多様性×プラゴミ削減⇒マイボトルの利用や量り売りゴミの削減、持続可能な資源(竹や木)の使用 |
| ビジネス | F | 途上国と消費者を繋ぐ仮想空間を提供するビジネス |
| | G | 生物多様性を１日で学べる大きなテーマパークをつくる。「わくわくふれあいネイチャーランド」という名前。<br>これをつくることによって自然と触れ合う機会を増やし、子どもからお年寄りまで楽しみながら学ぶことができる事業を行う。 |

## 実行委員会のコメント

- 生物多様性という点と違う点から考えていくことが凄くいい考え方が出ることから、違う分野からの意見の尊重が大事だとわかった。
- ユース会議に参加してくれた人、ユース団体の発表含め、自分ではない誰かのために行動できる人が数多くいることに衝撃を受けた。
- ここで出たアイデアを実現させてみたいと思った。
- これからの時代を担うのは僕たち若者なので、他人事で済ませるのではなく、自分達が人前に立ち、声を上げ、行動して行く必要があると思った。
- 今後もこのようなユース世代の人と関わりながら活動し、その都度の出会いを大切にして大きな輪広げていきたい。
- SDGsや生物多様性の推進を行っている団体と多く交流を行うことで、お互いに刺激し合うことが必要だと思った。
- 生物多様性に対する製品や企業の取り組みについてなどについてディスカッションをしなかったら知らなかったこうした新たなことを知り、そして新たなアイデアを生み出せるのが、グループワークの醍醐味だと気づいた。

**ユース会議実行委員会**

名城大学 2年 佐藤 凛
大同大学 3年 丸井 聡士
人間環境大学 3年 羽賀 悠佑
名城大学 2年 徳重 結希菜
名城大学 3年 中島 さくら
人間環境大学 2年 長田 賢人
名城大学 1年 安藤 雷明



# 生物多様性とSDGs多世代フォーラム

Multi Stakeholder Forum on Biodiversity and SDGs

**2022年 3月6日(日) 13:00~16:30**

会場 名古屋サンスカイルーム

生物多様性について多様な世代・主体が取組共有・意見交換するフォーラムを開催し、119名(会場56名・オンライン63名)が参加しました。生物多様性とSDGsの国際潮流に関する基調講演の後、市民団体、企業、学生団体といった各主体からの取組発表や、ユース会議、ブラジル・サンパウロ州のユースとの友好交流に関する成果等、ユースからの報告がありました。パネルディスカッションでは、大同大学 大東憲二 教授によるファシリテーションのもと、参加者を含めた多様な世代・主体が意見交換し、2050年の自然共生社会実現に向けた取組の方向性を共有しました。

## 基調講演

**SDGsの達成を支える生物多様性アクションとは**

国際自然保護連合日本委員会 副会長兼事務局長
日本自然保護協会 広報会員連携部長
道家 哲平 氏

## 各主体による取組発表

- 長久手湿地保全の会 代表 水岡 惠子 氏
  Civic group
- トヨタ車体株式会社 プラント環境生技部 志水 剛 氏
  Business Sector
- 命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会
  Youth

## ユースからの報告

- 生物多様性保全に係るブラジル・サンパウロ州のユースとの交流成果について
- 生物多様性と SDGs ユース会議（2 月 26 日開催）の成果について

## パネルディスカッション

【ファシリテーター】
大同大学情報学部総合情報学科教授
知多半島生態系ネットワーク協議会 会長 大東 憲二 氏

## 主催者挨拶

私たちの生活は自然の恵みに支えられています。自然を守り、次世代に引き継いでいくことが必要です。

愛知県知事 大村 秀章

## フォーラム当日の様子

基調講演（国際自然保護連合日本委員会　道家 哲平 氏）

取組発表（長久手湿地保全の会　代表　水岡 惠子 氏）

取組発表（トヨタ車体株式会社 プラント環境生技部 志水 剛 氏）

取組発表（命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会）

ブラジル・サンパウロ州のユースとの交流成果報告

生物多様性と SDGs ユース会議の成果報告

ファシリテーター　大同大学 教授　大東 憲二 氏

パネルディスカッションの様子



# 生物多様性条約事務局からのメッセージ

Message from Secretariat of the Convention on Biological Diversity

生物多様性条約事務局
Secretariat of the Convention on Biological Diversity

プログラムオフィサー　Programme Officer
オリバー　ヒレル
Oliver Hillel

生物多様性と SDGs 多世代フォーラムにあたり、一言ご挨拶できますことを光栄に存じます。
国連の機関である生物多様性条約事務局は、世界中の国々が自然と調和した生活を送り、基本的人権および健康で安心な生活の要因である生物多様性を保全するために尽力しており、本フォーラムの開催に敬意を表します。

事務局長のエリザベス・ムレマに代わりまして、愛知県の皆様に御礼申し上げたいことがございます。
一つ目は、2010 年に歴史的な生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）をこの地で開催してくださったことです。
この会議では、過去10年間に渡り私たちの取り組みの指針であった愛知目標が採択されただけでなく、州や県、地域に関する初の多国間計画が、国連の環境活動において初めて採択されました。二つ目は、愛知県のリーダーシップにより、愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合（GoLS）が組織されたことです。
COP10 以降、世界の 8 つの自治体に声掛けし、GoLS は政策文書の取りまとめや事例研究の発信に尽力してきました。

2010 年の愛知での会議は、盆栽から生け花、里山から里海など、日本の自然の歴史的、文化的、社会的意義の深さを世界に知らしめました。こうした背景があるからこそ、愛知は生物多様性保全に熱心に取り組んでこられたことと存じます。
エジプトのシャルム・エル・シェイクで開かれた COP14 では、大村知事はじめ地方政府の関係者が交流しており、こうした活動が世界の地方政府間連携の新たな場として結実しようとしています。
世界中で 6 万の地方政府がますます積極的に国連の議題に関わるようになってきていますが、地方政府は、各地域において生産と消費のあり方をより持続可能なものへと再設計する、生物多様性の主流化の推進主体なのです。
一例を挙げれば、多くのユネスコエコパークの管理で地方政府が重要な役割を果たしています。

最後に、愛知県の皆様にお願いがございます。自然に根ざした解決策を率先して取り続け、すべての生物との共生に資する決断をお願いします。それが私たち自身の利益にもつながります。
どうか持続可能な循環型経済を応援してください。自然を訪れてください。ご自宅を自然の魅力が感じられる場所にしてください。安全な食や水、きれいな空気のため、川や森、湿地を守る政策を応援してください。もし可能であれば、お使いの製品やサービスを提供している企業に対して、どうすればより持続可能な生産ができるか、また環境保全活動へ参加できるか、尋ねてみてください。
地球の自然が失われていく流れをすぐにでも逆転させなくてはいけません。皆様次第で、あらゆることが変わります。

SDGs の観点からも、愛知県の皆様お一人おひとりが、それぞれのライフスタイルの中で自然や気候にとってプラスとなる取組を目指しながら、正しい政策と消費行動を選択する時間をとるきっかけになることを願っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2021年度

# 生物多様性とSDGsユース会議・多世代フォーラム

Youth Conference & Multi Stakeholder Forum on Biodiversity and SDGs in Aichi

発行 愛知県環境局環境政策部自然環境課 (2022年3月)
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 TEL: 052-954-6475 (ダイヤルイン)